

低温・常温倉庫が稼働

コメ中心 農産物を保管

白石倉庫



建設を進めてきた三つの倉庫のうち2番目に竣工（TTC3号倉庫）

【宮城】白石倉庫（太宰栄一社長、宮城県白石市）は17日、本社敷地に隣接する白石インター営業所TTC（トラクターミナルセンター）の3号倉庫棟を稼働させた。TTC敷地内（2万4500平方メートル）で建設を進めてきた三つの倉庫のうち2番目に竣工した倉庫で、床面積3700平方メートルの鉄骨造り平屋建て。セ氏10～15度に対応した定温倉庫に加えて一部常温倉庫も備える。コメを中心とした農産物などを保管する。

2017年3月に完成した1号棟は、ドラッグストア向けの日用品がメインの倉庫。残る2号棟は日用品需要への対応を見込んでおり、11月稼働の予定だ。太宰社長は3号棟の完成について「更なる保管品質の向上を目指して、地域の農産物物流に貢献できれば」と抱負を語る。

これまで、東北自動車道・白石インターチェンジ周辺エリアで、10棟の倉庫を稼働させる計画を推進してきた。「2024年問題」を踏まえ、東京―青森のほぼ中間点となる優位性を生かせる拠点整備に努めている。本社トランクルームと

白石インター営業所などを
含めた全体で3万7500平方メートルの敷地に、延べ床面積2万1900平方メートルの受け入れ態勢がこの秋にも整う。
（今松大）